

しあわせを実感できる 市政につなげるには

ふじおか よしゆき
藤岡 善行



市営住宅・国保税について

- Q** 市営住宅入居時の連帯保証人制度の廃止について、周知の方法はどのようにしているのか。
- A** HP、広報たかはし4月号で周知している。
- Q** 連帯保証人の解除をしないでいると、連帯保証人の機能が継続されるのか。
- A** そのとおりである。
- Q** 入居者や連帯保証人に対して、解除通知等は告知・通知しないのか。
- A** 現に連帯保証人である人は継続することを原則として規定しており、現時点では考えていない。
- Q** 国保税の減税として世帯一律2万円の引き下げを求め、さらには18歳まで均等割の賦課の廃止を求めるがどうか。
- A** 基金取り崩しで一律2万円は（単年度としても）難しい。18歳までの均等割については5割負担を実施している。
- Q** 国保税の納入困難世帯に対して、親身な対応が必要だと思うがどうか。
- A** 減免の対象となるか詳細な状況の確認に努め、減免にならない場合も分納等の納付相談に応じている。

不登校について

- Q** 不登校の子どもや子どもを支える保護者への具体的な支援策について、「つらい時には学校を休むことも必要だ」と市長及び教育長からメッセージを発信するべきでは。
- A** 必要に応じて発信していく。
- Q** これまで、学校に行きづらいと感じている教職員もいた。子どもや保護者、教職員に対しても適切な支援をお願いしたい。
- A** 不登校の問題は、学校関係者、教職員だけではなく、関係機関も含めた「チーム学校」として取り組んでいく。

吹屋のPRにはゆかりのある 民間企業の活用を

こばやし しげき
小林 重樹（高梁政志会）



ジャパンレッド発祥の地 吹屋に対する観光振興について

- Q** 観光地吹屋として足りないものは何か。どのように確保していくのか。
- A** 吹屋観光の最大のウイークポイントはアクセスの難しさであり、喫緊の課題である。対応策としてマイカーやレンタカー利用者には、迷いやすい分岐点への看板の増設、観光地としての吹屋への誘導が直感的に分かるデザインの改善を図っている。また、備中高梁駅から吹屋までのアクセスルートの動画を撮影してHP等で紹介、アクセスルートが事前に確認できるようにしている。路線バスを利用する観光客には、駅やバスセンターでの案内表示も今以上に改善していく。
- Q** 「森の芸術祭」に向け、観光客、インバウンド等へのPRや誘致が必須条件となるが、吹屋にゆかりのある民間企業の活用を図ったらか。
- A** 吹屋には住友グループの母体である「泉屋」が銅山経営を行ったという歴史や、三菱グループの創始者「岩崎弥太郎」が銅山で産業を興したという歴史がある。そういった歴史的なものも踏まえてさまざまな形で支援いただけるよう幅広く研究、検討していきたい。また、それを通じて企業のPR等をしていただければと考えている。



吉岡銅山跡

市街地の町並みは危機的状況！ このままで良いのか

もり かずゆき
森 和之



学童保育について

- Q** 学童保育の運営業務が民間委託され、今年度末には契約期間が満了するが、次年度の事業者についてはどうするのか。
- A** これまでの運営実績や、児童・保護者への影響を踏まえた上で、適切な方法により決定していく。また、先行自治体の事例も参考にしながら、どのような選定方式が望ましいかについて検討を進めていく。

観光について

- Q** 市街地の町並みを歩けば、土塀や土壁が落ちているところや老朽化してそのままになっているところが目に留まる。町並みを守るためには細やかな支援が必要ではないか。
- A** 建物の多くは個人所有で市が主体となって整備を行うことには制約がある。そのため、現在は歴史的町並み保存地区整備事業補助金の活用を促し、周知に努めている。自分たちの資産財産である古い町並みを維持して未来に伝えていくという思いを持ってもらえるよう、市の景観計画や補助制度について啓発に取り組んでいく。

市街地の町並みについて石田市長の考えは

- Q** 住民の意識だけでは町並みは守れないと思う。石田市長の考えを聞きたい。
- A** 歴史的風致がこの町にとって要らないとは思わない。必要だと思っているが財源には限りがある。使える財源、予算は使った上で歴史的な風致、伝統や文化を維持していきたい。また、変わろうとするところについては、市街地に必要なものが見極めて支援をしていく。

伯備線で地域活性化を！！

みやた よしお
宮田 好夫



高梁北中学校の統合について

- Q** 統合に向けてのスケジュールは。
- A** 令和10年度の統合に向けて、4月に小・中学校のPTA、5月には地域に説明し、6月29日に再編準備委員会を開催予定としている。
- Q** 通学方法はどうか。
- A** 公共交通が基本だが、実態を見ながら検討していく。

外国人との共生について

- Q** 住民基本台帳によると外国人は900人台で推移している。この方々への情報伝達はどうしているのか。
- A** 本市の外国人住民の割合は人口比3.6%で、県内平均2%に比べて高い。このため外国人向けに、市のHPでは「やさしい日本語」による表記に努めるとともに、自動翻訳機能も導入している。また月2回、日本語教室も開催し、生活支援に取り組んでいる。避難所対応ではタブレットなどの通訳機能を活用している。

伯備線全線開通100周年について

- Q** 以前の一般質問で、伯備線全線開通100周年に向け、総社市と新見市と連携して記念事業や観光誘客事業を行いたいとあったが、進捗状況はどうか。
- A** 昨年、総社・高梁・新見連携協議会を発足させ、観光客誘致に向けた施策や撮り鉄（鉄道写真愛好家）対策の事業を展開している。
- R** 木野山駅では、今年が100年なので駅舎に看板を置き、新聞記事や写真を展示した。全線開通100年には各駅が一体感を持って祝賀できることも考えていただきたい。